

2021年度コース生募集

東京大学高齢社会総合研究国際卓越大学院 WINGS-GLAFS

World-leading Innovative Graduate Study Program in Gerontology
:Global Leadership Initiative for Age-Friendly Society

(旧：博士課程教育リーディングプログラム「活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム」)

オンライン説明会 4月5日(月) 17時～

当日正午までにメールでお申込みください (申込方法等の詳細は募集要項参照)

申請受付期間 4月2日(金)～4月9日(金) 15時(必着)

面接 4月10日(土) 10時～／合格発表 14時～

修士・博士一貫の分野横断的教育プログラムを通じて

高齢社会問題

に取り組む博士レベルのエキスパートを養成します

所属専攻での学修に加え、高齢社会総合研究学(ジェロントロジー)の最前線の現場で講義・実習を履修することができます(修了者は高齢社会総合研究国際卓越大学院プログラム修了認定)



募集要項と説明会申込方法はこちら↓

GLAFSホームページ(募集要項掲載) <http://www.glafts.u-tokyo.ac.jp/>
お問い合わせ 東京大学高齢社会総合研究機構 (Institute of Gerontology:IOG)
GLAFS担当: info@glafts.u-tokyo.ac.jp



令和3(2021)年度
東京大学国際卓越大学院教育プログラム
「高齢社会総合研究国際卓越大学院 (WINGS-GLAFS)」
コース生募集要項

1. プログラムの趣旨

(1) 本プログラムの教育研究上の目的

国際卓越大学院教育プログラムは、新しい価値創造の試みに果敢に挑戦するとともに、多分野や異文化との積極的な対話と協働を進め、その知見を主体的な行動によって社会にフィードバックできる高度博士人材を養成する特別な教育課程である。

本プログラムでは、「活力ある超高齢社会を実現するためには、分野横断的専門家のチームと地域住民、行政、企業等による協働的活動を主導し、様々な現場の様々な課題を解決する力を備えた多様な人材が必要であり、座学に加えて、現場で分野横断的な取り組みに加わり、体験することが重要である。」という、これまで本学で行われてきた高齢社会総合研究学(ジェロントロジー)の研究・実践の蓄積を踏まえ、フレイル予防研究(老年医学)、ジェロテック研究(機械情報系工学)、ハビタット研究(建設系工学)を3本柱とする医工連携研究の最前線の現場を主たるフィールドとしつつ、ジェロントロジーの様々な学問領域との関連を理解する**俯瞰力**、特定課題解決時に必ず生じる**周辺領域理解力**、具体の特定課題を実社会の中で解くために必要な社会規範や経済の理解、現場の人間関係への対応、社会に対する説得力あるプレゼン能力等によって構成される**社会継続力**を、それぞれ**概論、特論、実習**という形で教育プログラムに取り入れることによって、**多領域連携力**の涵養を目指している。

(2) 養成する人材像

日本及び世界のあらゆる領域で直面する高齢社会特有の課題解決に向けて、医工連携研究の最前線の現場で身に付けた俯瞰力、周辺領域理解力、社会継続力をもち、研究の多領域連携力を身につけた人材

2. 申請資格

本コース生に応募できる者は、2021年4月に下記＜本プログラムの参加専攻＞の修士課程1年次または4年制博士課程1年次または先端学際工学専攻博士後期課程1年次に在籍する者で、かつ、次の要件を全て満たす者とする。

- ・高齢社会の課題解決に資する研究意欲、修博一貫課程への意欲により博士の学位を取得しようとする者
- ・本プログラムの趣旨、履修要件等のルールを十分に理解する者
- ・本プログラムの趣旨、履修要件等のルールを修士論文、博士論文の指導教員に十分に理解していただいている者
- ・博士の学位記に本コースを修了したことが付記されることを了解している者
- ・下記の本プログラム参加専攻の博士後期課程に進学することを目指す者 ※
- ・本コース生として採用後、日本学術振興会(JSPS)特別研究員(DC1、DC2)に応募し、採択された場合には本コースに引き続き在籍を続けることを確約する者

※下記の専攻以外への編入、博士後期課程への進学をする場合は、本プログラムの履修を継続することはできない。

※修士課程修了後に就職等により博士後期課程への進学を目指さない学生は、コース生となることはできない。

＜本プログラム参加専攻＞

工学系研究科: 社会基盤学専攻、建築学専攻、都市工学専攻、機械工学専攻、
精密工学専攻、化学システム工学専攻、先端学際工学専攻

人文社会系研究科: 社会文化研究専攻

教育学研究科: 総合教育科学専攻、学校教育高度化専攻

法学政治学研究科: 総合法政専攻

総合文化研究科: 広域科学専攻

農学生命科学研究科: 生産・環境生物学専攻、応用生命化学専攻、水圏生物学専攻、
農業・資源経済学専攻、生物・環境工学専攻、応用動物科学専攻、獣医学専攻

医学系研究科: 社会医学専攻、生殖・発達・加齢医学専攻、外科学専攻、国際保健学専攻、健康科学・看護学専攻

新領域創成科学研究科: 先端エネルギー工学専攻、人間環境学専攻、
社会文化環境学専攻、国際協力学専攻

情報理工学系研究科: 知能機械情報学専攻

学際情報学府: 学際情報学専攻

3. 募集から採用までの手続き

(1) 募集

- ① 募集人員 各年度 定員10名
- ② 募集時期 4月 (年1回)
- ③ 説明会 募集に関する説明会を下記日程にてオンライン授業形式にて行う。
 - ア. **開催日程 4月5日(月) 17:00~18:00**
 - イ. 説明会への申込方法 件名に「4/5GLAFS募集説明会参加申込」、本文に ①氏名 ②4月在籍予定の所属専攻 ③4月時点の学年 を明記の上、info@glafs.u-tokyo.ac.jpまでメールで申込み
 - ウ. **説明会への申込締切 4月5日(月) 正午**
* 当日の動画・資料は希望者に後日配布する予定です。希望者はメールで連絡すること。

(2) 申請

- ① 申請書類及び提出方法
 - ア. 申請書 所定の用紙(様式1(P9-13))に申請者が記入の上、下記の受付まで郵送またはメールにて提出すること。
 - イ. 教員の意見書 所定用紙(様式2)に**指導教員又は所属専攻のWINGS-GLAFS担当教員**が記入する。
提出方法は、「**教員が厳封した意見書を持参・郵送**」、あるいは「**記入した教員から直接メール送信**にて提出」のいずれかにて提出すること
- ② **受付期間 令和3(2021)年4月2日(金)から4月9日(金)15:00まで(必着)。**
- ③ 受付窓口 東京都文京区本郷7丁目3番1号・工学部8号館7階713
東京大学高齢社会総合研究機構 GLAFS 担当
申請書提出先・問い合わせ先 info@glafs.u-tokyo.ac.jp

(3) 選抜方法

コース生の選抜は、申請書類(申請者情報、研究計画、参加動機と将来構想、指導教員等の意見書)、面接を総合的に判断して行う。

面接予定日: 令和3(2021)年4月10日(土) 10:00~12:00

申請書提出後、メール等にて日時調整を行う。なお、新型コロナウイルス感染防止のためWEB面接にて行います。

(4) 選抜結果の通知

選抜結果の発表は、令和3(2021)年4月10日(土)14:00より申請者全員に対し、メールで通知する。

(5) 採用手続

採用手続書類は、発表後にメールにて採用内定者に送付する。採用内定者は、採用手続要領により、令和3(2021)年4月16日(金)15:00までに必要な採用手続(採用手続書類の提出)を行うこと。所定の期間内に採用手続を行わない場合は、採用内定を辞退したものと取り扱う。

4. プログラムの概要

(1) カリキュラム ―高齡社会総合研究学 概論・特論・実習―

本プログラムでは、多領域連携力の涵養のため、ジェロントロジーが様々な学問領域から構成されることを理解する俯瞰力修得のために必修の**概論**、特定課題解決時に必ず生じる周辺近接領域の存在・特性・連携の仕方を理解する周辺領域理解力修得のために選択必修の**特論**、具体的な特定課題を実社会の中で解くために必要な社会規範や経済の理解、現場の人間関係への対応、社会に対する説得力あるプレゼン能力等によって構成される社会接続力修得のために選択必修の**実習**を、それぞれ概論、特論、実習という形で採り入れる。さらに、年に2回の**全体発表会**を設け、履修生と関連教員全員がそれぞれの研究手法を学び合う場を提供する。

＜概論(座学)＞ 俯瞰力の修得（必修／2科目4単位履修）

高齡社会における人間の「個」と「社会」という存在形態に依拠した形で、高齡社会に関わる基礎的知の基盤を伝授する。

＜特論(座学)＞ 周辺領域理解力の修得（選択必修／3科目6単位以上履修 ※）

高齡社会総合研究学の各専門分野の最前線を示す専門領域にかかわる視座を提供する。履修生は、これらの講義群の中から自らの興味と、実社会において実現したい生活場面に関わる、気になる近接領域の最前線を学ぶ。

＜実習(フィールド)＞ 社会接続力の修得（選択必修／3科目6単位以上履修 ※）

活力ある超高齡社会を実現するためには、分野横断的専門家のチームと地域住民、行政、企業等による協働的活動を主導し、様々な現場の様々な課題を解決する力を備えた多様な人材が必要であり、上記の座学(概論と特論)に加えて、現場で分野横断的な取り組みに加わり、体験する。複数の実習を履修することを通して、マルチスケールの生活場面への研究成果の社会接続の技量を体験的に学ぶ。集中講義形式で、選択肢の高いカリキュラムとする。

なお、実習は概論において高齡社会の基礎を修得した後に履修するものとする。(概論単位取得済が実習履修要件)

＜全体研究発表会＞ 多領域連携（実習発表／博士論文研究発表）

実習履修者には、各実習の学期最後の講義として、年に2回の全体研究発表会を設け、本プログラム履修生全員で、それぞれの実習の成果を発表する。加えてこの全体発表会で、博士後期課程及び4年制博士課程の学生は博士論文研究の発表を行う。このことを通して、異分野の研究手法等を学び合う場をつくる。

※4年制博士課程と先端学際工学専攻博士後期課程の者については、本頁の修了要件とは異なる点があるので、P5の「課程・学年・入学学期別 履修要件・修了要件 解説図」を参照すること。

(2) 本プログラムの修了要件

本プログラムでは、修士課程(博士前期課程)修了時点のQualifying Examination(QE)並びに博士後期課程修了時のFinal Examination(FE)の2回の審査を行うとともに、各学年進学时には履修状況を確認し、所属専攻の研究活動と並行した本プログラムの活動が円滑かつ計画的に進められているかを、論文指導教員との連絡の下に確認し、必要に応じた履修・研究指導を行う。QE、FE等については、以下の内容とする。

■ 修士課程修了時 資格審査 (QE:Qualifying Examination)

修士課程修了時の QE では、「単位要件」、「学振要件」、「博士課程進学の確認」によって考査する。ただし、4 年制博士課程と先端学際工学専攻博士後期課程の者については、上記に加え、「発表要件」も加味して可否を判定する(「課程・学年・入学学期別 履修要件・修了要件 解説図」を参照)。

- ・**単位要件** : 概論(必修)4単位と、特論(選択必修)と実習(選択必修)から6単位以上の、合計10単位以上取得しなければならない。※
- ・**学振要件** : 日本学術振興会(JSPS)特別研究員(DC1 もしくは DC2)に申請しなければならない。申請後すぐに、申請書及び採否通知PDFを提出すること。※
- ・**博士課程進学の確認** : 面接により博士後期課程進学の確認を行う。※

■博士課程修了時 修了審査 (FE:Final Examination)

博士後期課程終了時のFEでは、「単位要件」、「発表要件」、「学振要件」によって考査する。この考査に加え、所属専攻における博士論文の審査に合格した場合、「高齢社会総合研究国際卓越大学院プログラム修了証」が授与されるとともに、所属専攻が授ける博士の学位記に「高齢社会総合研究国際卓越大学院プログラム修了」という認定が付記される。

- ・**単位要件** : 概論(必修)4単位と、特論(選択必修)6単位以上と、実習(選択必修)6単位以上の、合計16単位以上取得しなければならない。※
- ・**発表要件** : 博士後期課程在籍期間中の各学期末に、指定された回数の博論研究進捗発表を、全体発表会時に行うこと。※
- ・**学振要件** : 日本学術振興会(JSPS)特別研究員(DC2)に申請しなければならない。申請後すぐに、申請書及び採否通知PDFを提出すること。※

□日本学術振興会(JSPS)特別研究員(DC1、DC2)への申請

DCに採択されるまで継続して応募し、採択された場合においても本プログラムに引き続き在籍することが必要である。DCに応募しなかった場合には、理由書等で経緯を明らかにすること。理由によっては、プログラム履修の中断や経済的支援(卓越RA)の支給停止を行う場合がある。

□全体発表会における実習発表と博論研究進捗発表

年2回、各学期末に、全体発表会を行う。全体発表会は、実習発表と博論研究進捗発表からなる。実習を履修した者は、実習発表を行うことによって単位が授与される。さらに、博士課程在学中は6回から8回の博論研究進捗発表を行わなければならない。なお、博論研究進捗発表は、P1やP2のように表記する(Presentationの略)。※

※4年制博士課程と先端学際工学専攻博士後期課程の者については、本頁の修了要件とは異なる点があるので、P5の「課程・学年・入学学期別 履修要件・修了要件 解説図」を参照すること。

その他

- ・本プログラムが文科省や大学等から依頼される調査への協力と、本プログラムが指定する活動への参加を履修の条件とする。これらの調査への協力、活動への参加の状況によって、経済的支援の給付額の減額等の措置を行う場合がある。
- ・本プログラムに届け出た情報に変更が生じた場合は、速やかに申し出ること。
- ・本プログラムは修士博士一貫プログラムであるが、博士修了に至らず、途中辞退する場合には、その事由が生じた際に速やかに申し出、辞退届を提出すること。なお、辞退理由やその申し出時期により、支給した卓越RA費の返還を求めることがある。

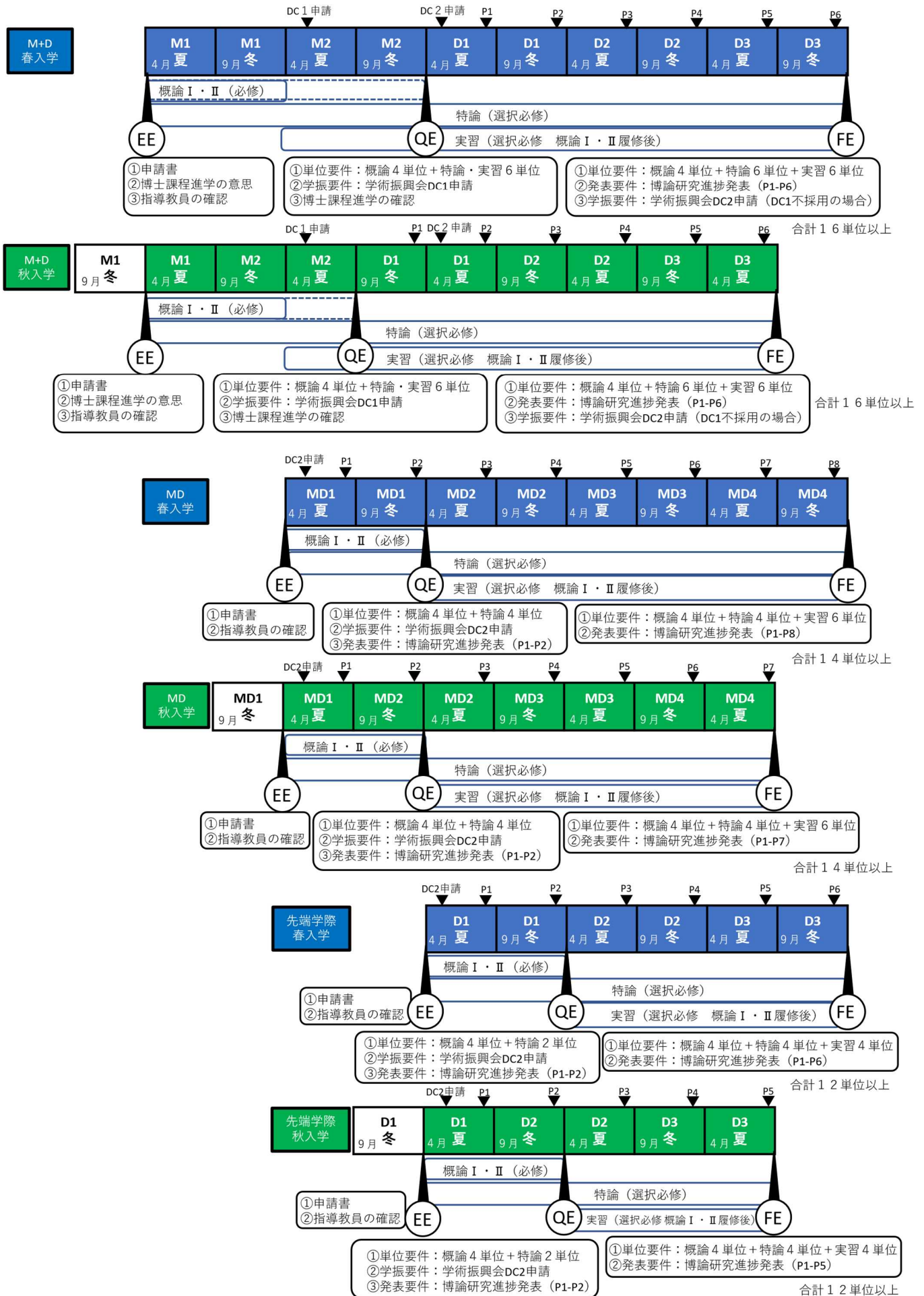
(3) 課程・学年と履修要件及び修了要件

所属する専攻や課程、入学時期によって、履修要件・修了要件が異なる。これをまとめた図「課程・学年・入学学期別 履修要件・修了要件 解説図」を次頁に掲げるので、各自の該当する要件を確認すること。

(4) オンライン授業

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、2021年度はオンライン授業を活用することを予定している。ガイダンス等で受講準備等を進め、WINGS-GLAFSからの通知あるいはUTASの科目情報を確認して受講すること。

課程・学年・入学学期別 履修要件・修了要件 解説図



5. 経済的支援(卓越RA)

経済的支援(卓越RA)に関わる所定の様式にて申請した者に対し、選考委員会で審査し、給付額を決定し、卓越RA(下記、卓越RA実施要領抜粋参照)として委嘱する。博士前期課程(修士課程)2年次のコース生には月額6万円を上限に、博士後期課程及び4年制博士課程のコース生には月額18万円を上限に支給する。

支給にあたっては、毎月「卓越リサーチ・アシスタント研究業務終了報告書」を所属研究室の指導教員に報告の上、指導教員の印が押された報告書をプログラム・コーディネーター宛に指定した期日までに提出すること。手続きの詳細は本プログラム卓越RAの募集要項(入学時配布資料)に定める。

なお、本経済的支援(卓越RA)の受給に関しては、以下の点を十分注意すること。

1. 卓越RAは対価型で、いわゆる給付型の奨励金とは異なる。
2. **卓越RAでの経済的支援の支給を希望するコース生は、日本学術振興会特別研究員(DC1・DC2)に応募することを条件とする。**
3. 修士課程2年次のQE面接において、博士後期課程への進学予定を確認し、進学断念が確認された時点で、卓越RAでの経済的支援は停止する。
4. 他のフェローシップや奨学金、アルバイトとの重複については、合計額の上限が規定されており、RAの支給額を減額されることがある。また、アルバイトの内容、奨学金支給元の規則により重複受給が認められない場合があるので、詳細は卓越RAの募集要項で確認すること。
5. 卓越RAは、税法上、給与所得として課税されるため、毎月の所得税を源泉徴収した上で支給する。そのため、年末調整や確定申告を行う必要がある。
6. 1月から12月までの年収が一定の金額を超える場合、所得税法上の扶養控除を受けることができないことや、保護者や配偶者等の健康保険の被扶養者から外れることがあるので、保護者や配偶者等と予め十分に相談しておくこと。なお、当該年収に応じて、次年度に住民税が課税される場合もある。
7. 本人の意思により年度の途中においても受給の辞退及び支給額の減額を申し出ることができる。
8. 本人の履修状況を含む総合評価により、年度の途中においても支給額を減額することがある。
9. 上記記載の限度額は今年度の規定であり、来年度以降は本プログラムの予算状況により変更することがある。

——「東京大学卓越リサーチ・アシスタント(卓越RA)実施要領」より以下抜粋——

(目的)

第1条 この要領は、東京大学における独創性及び高度な専門性を要する研究プロジェクト等の業務遂行に、選拔された特に優秀な大学院学生を参画させて、研究活動の効果的推進、研究体制の充実及び学術領域を俯瞰する能力の育成を図るための卓越リサーチ・アシスタント(卓越RA)に関し、必要な事項を定めるものである。

(委嘱する研究業務)

第2条 卓越RAは、前条に掲げる目的のため、研究活動に有益な研究業務に従事するものとする。

2 卓越RAに委嘱された学生は、採択された研究業務を適正に遂行しなければならない。なお、その遂行にあたっては、授業等に支障のない範囲で行うものとする。

—中略—

(研究業務の実施確認)

第7条 卓越RAに委嘱された者は、研究業務終了時に卓越リサーチ・アシスタント研究業務終了報告書(様式2)を各プログラム等の代表者に提出するものとする。

6. 注意事項

- (1) 受付期間内に必要書類が完備しない申請は、受理しない。
- (2) 申請手続完了後は、どのような事情があっても、書類の変更は認めない。
- (3) 事情により、申請手続等について変更することがある。変更があった場合は、改めて通知する。
- (4) 申請に当たって知り得た氏名、住所その他の個人情報については、①履修者選抜(申請処理、選抜実施)、②採用者発表、③採用手続業務を行うために利用する。また、同個人情報は、採用者のみ①学務関係(学籍、修学等)、②学生支援関係(就職支援、授業料免除申請等)に関する業務を行うために利用する。
- (5) 申請書における記載内容について虚偽の記載をした者は、採用後においても遡ってコース生であることを取り消すことがある。
- (6) WINGS-GLAFSは、2019年度までに入学した学生を対象とするリーディング大学院GLAFSと共同のカリキュラムで行われるが、制度に異なる点があるため、本年度に応募する者は、本募集要項に記載された制度に依ることを理解すること。
- (7) 履修登録・修正及び授業料免除の手続きは、所属専攻の手続きに則って各自行う。学期末に遡って履修登録を修正することが難しい学科があるため、学期初めの修正期間に十分確認すること。当プログラムでは履修登録・修正を行うことができないため注意すること。

7. 2021年度年間スケジュール(予定)

2021年 4月

2日(金)～9日(金) 2020年度コース生申請受付

5日(月) 募集説明会17:00-18:00

10日(土) 面接10:00-／選抜結果の通知14:00-

16日(金) 採用手続締切15:00

4月

10日(土) 夏学期 ガイダンス・実習説明会(新入生向け) 15:00-16:00

歓迎交流会16:00-18:00

5月

中旬 日本学術振興会・特別研究員申請

*所属研究科の学内締切に留意し、対象学年の者は必ず応募すること

とくに、電子申請用ID・パスワードの発行は4月締切の場合があるので注意すること

7月

31日(土) 夏学期 全体発表会(実習発表・博論研究進捗発表)

10月

2日(土) 冬学期 ガイダンス・実習説明会

2022年 3月

上旬 翌年度 経済的支援(卓越RA)申請受付

5日(土) 冬学期 全体発表会(実習発表・博論研究進捗発表)

24日(木) 修了式&OBOG交流会

8. 2021 年度開講科目一覧

2021年度カリキュラム一覧								
科目番号	開講科目名称・講義別名	単位数	開講区分	主担当教員名	曜日	時限 (開始・終了)	必修 選択必修 選択	備考
講義（必修）								
3799-220	高齢社会総合研究学概論Ⅰ 高齢者の体と心：老いにつきあう	2	夏学期 (S1S2)	飯島	水	5限 16:50-18:35	必修	
3799-221	高齢社会総合研究学概論Ⅱ 高齢社会のり・デザイン	2	冬学期 (A1A2)	大月	水	5限 16:50-18:35	必修	
講義（選択必修：6単位以上取得※）								
3799-222	高齢社会総合研究学特論Ⅰ	2					選択必修	(2022年度開講予定)
3799-223	高齢社会総合研究学特論Ⅱ 超高齢社会の住まい・まちづくり	2					選択必修	(2022年度開講予定) 隔年開講
3799-224	高齢社会総合研究学特論Ⅲ 人生100年時代のライフコース論	2	夏学期 (S1S2)	大月 菅原	金	2限 10:25-12:10	選択必修	
3799-225	高齢社会総合研究学特論Ⅳ 高齢社会のケア・サポート・システム	2	夏学期 (S2)	飯島	火	5限-6限 16:50-20:30	選択必修	
3799-226	高齢社会総合研究学特論Ⅴ 地域農業マネジメント	2	冬学期 (A2)	八木	火 金	5限 17:05-18:35	選択必修	
3799-227	高齢社会総合研究学特論Ⅵ 高齢者法	2					選択必修	(2022年度開講予定) 隔年開講
3799-228	高齢社会総合研究学特論Ⅶ	2					選択必修	
3799-229	高齢社会総合研究学特論Ⅷ	2					選択必修	
3799-230	高齢社会総合研究学特論Ⅸ	2					選択必修	
3799-231	高齢社会総合研究学特論Ⅹ ジェロンテクノロジー	2	冬学期 (A1A2)	檜山 二瓶	木	5限-6限 16:50-20:30	選択必修	
3799-232	高齢社会総合研究学特論Ⅺ 超高齢社会を支える情報学	2					選択必修	(2022年度開講予定)
3799-233	高齢社会総合研究学特論Ⅻ	2					選択必修	
実習（選択必修：6単位以上取得※）								
3799-234	高齢社会総合研究学実習Ⅰ	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	
3799-235	高齢社会総合研究学実習Ⅱ	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	
3799-236	高齢社会総合研究学実習Ⅲ	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	
3799-237	高齢社会総合研究学実習Ⅳ	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	
3799-238	高齢社会総合研究学実習Ⅴ	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	
3799-239	高齢社会総合研究学実習Ⅵ	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	
3799-240	高齢社会総合研究学実習Ⅶ	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	
3799-241	高齢社会総合研究学実習Ⅷ	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	
3799-259	高齢社会総合研究学演習Ⅹ	1	通年	各教員	—	集中	選択必修	

※4年制博士課程と先端学際工学専攻博士後期課程の者についてはP3-5で修了要件を確認すること

令和3（2021）年度 東京大学国際卓越大学院教育プログラム（WINGS）
「高齢社会総合研究国際卓越大学院（WINGS-GLAFS）」
World-leading Innovative Graduate Study Program in Gerontology
: Global Leadership initiative for an Age-Friendly Society (WINGS-GLAFS)
コース生 履修申請書

1. 申請者情報等

（フリガナ） 氏 名		男 女
国 籍		
生 年 月 日		

2021 年 4 月時点 の所属専攻名	東京大学大学院 研究科 専攻 修士課程 ・ 4 年制博士課程 ・ 博士後期課程 1 年次 ※該当するものに○をつけてください。 (入学年月： 年 月)			
学 籍 番 号				
2021 年 4 月時点の 指導教員	専攻名		氏 名	
	E-mail			
研 究 課 題				
卓越 RA 受給 (M2 以上対象)	希望する ・ 希望しない ※どちらかに○をつけてください			
他の国際卓越大学院 WINGS にも申請している場合は、申 請先を記入				
現 住 所	〒 電話： E-mail：			
学 歴 (留学も含む)	年 月 大学 学部 学科 卒			
	年 月 東京大学大学院 研究科 専攻 入学			
社会人経験	有 ・ 無 ※社会人：現に職に就いている者、入学のために退職した者、企業等を退職した者若しくは主婦を指す			
職 歴 (期間、所属、職名、主な職 務を記載／インターンシッ プを含む)				

2. これからの研究計画

申請者氏名 _____

(図表を含めることも可。10 ポイント以上の文字で記入。1 ページ以内とし様式の改変・追加は不可)

以下の点についての記述をできるだけ含め簡潔に記述すること。

- ① これまでの研究背景とその問題点について参考文献をあげて記述してください。
- ② 研究目的、研究方法、研究内容について記述してください。
- ③ 本研究の特色、着眼点、独創的な点、本研究が完成した場合のインパクトなどについて記述してください。
- ④ どのような計画で、何をどこまで明らかにしようとするのか、具体的に書いてください。

3. 研究と高齢社会の諸問題の解決との関連

申請者氏名 _____

(10 ポイント以上の文字で記入。1 ページ以内とし様式の改変・追加は不可)

自分の研究が、高齢社会の課題解決にどのように関連するのかについて記述してください。

4. 本プログラムに参加する動機と将来のキャリアについての構想

申請者氏名 _____

(10 ポイント以上の文字で記入。1 ページ以内とし様式の改変・追加は不可)

本プログラムを志望する理由、博士課程修了後のキャリア（産、学、官など）の構想について記述してください。（高齢社会特有の課題解決に向けて、将来のキャリアの中でどのように貢献したいと考えているのかということについても言及してください。）また、自己の長所や特に重要と思われる事項（研究発表、特に優れた学業成績、受賞歴、留学経験、特色ある学外活動）などの自己評価についても記述してください。

5. 研究活動の状況

申請者氏名

(10 ポイント以上の文字で記入。1 ページ以内とし様式の改変・追加は不可)

(1) 現在までの研究活動について記述してください。卒業研究やそれに準ずるもの（特別実験、理論演習など）を含めても構いません。

以下の項目については、申請者が中心的な役割を果たしたもののみ、項目に区分して記載してください。その際、通し番号を付すこととし、該当がない項目は「なし」と記載してください。申請者にアンダーラインを付してください。

(2) 国内学会・シンポジウム・国際会議等における発表（口頭・ポスターの別、査読の有無を区分して記載してください。）

本人が発表したもののみ、著者（申請者を含む全員の氏名を、発表時と同一の順番で記載してください。ただし、著者名が多数におよぶ場合は、他〇〇名として一部を省略可とします。）、題名、発表した学会名、論文等の番号、場所、月・年を記載してください。（発表予定のものは除く。ただし、発表申し込みが受理されたものは記載しても構いません。その場合は、それを証明できるものを添付してください。）

(3) 学術雑誌等に発表した論文、著書（印刷済または採録決定済のものに限り。また、査読の有無を区分して記載してください。）

著者（申請者を含む全員の氏名を、論文と同一の順番で記載してください。ただし、著者名が多数に及ぶ場合は、他〇〇名として一部を省略可とします。）

題名、掲載誌名、発行所、巻号、頁、発行年をこの順で記入してください。採録決定済のものについては、それを証明できるものを添付してください。

(4) その他（受賞歴等）

様式 2

東京大学国際卓越大学院教育プログラム (WINGS-GLAFS) 申請者に関する意見書

このページは指導教員が作成し、封筒に入れて封をしてください（表に応募者の名前と所属専攻を明記）。

※ただし、指導教員から直接事務局にメールで提出の場合は、指導教員の押印がなされたものとして取扱いますので、原本の提出は不要です。提出先：info@glafs.u-tokyo.ac.jp

① 申請者氏名	
② 研究課題（申請書の「研究課題」を記入）	
③ 申請者に対する評価	
④ 総合評価 申請者の研究能力を総合的に評価し、該当する項目に○印をつけるとともに、推薦の順位を記してください。	(1) これまで指導した学生の中で a. 上位 10 %程度 b. 上位 25 %程度 c. 上位 50 %程度 d. 上位 50 %以下 (2) 推薦する学生____名中____番目

☐（チェック） 本コースでは卓越 RA による経済的支援を行います。本人が希望する場合、卓越 RA の研究指導を行うことを了承します。

評価者の所属機関：東京大学 _____ 研究科・研究所
職： _____ 氏名： _____ (印)